

五月の連休を利用し、長年の夢を二つ実現しました。一つは東京国立博物館で阿修羅像と二度目の対面を果たしたことです。もう一つは葛飾柴又の「とらや」で団子を食べ、帝釈天にお参りしたことです。

映画「男はつらいよ」の渥美清が演じる「寅さん」には若い時のサラリーマン生活で慰められ、勇気づけられました。「寅」がとらやの裏の印刷会社を営む「タコ社長」と掛け合いのあげく、最後は必ず取っ組み合いの喧嘩になってしまいます。またタコ社長はいつも資金繰りに汲々とし、ため息ばかりついていました。その姿に笑いながらも零細町工場の社長の悲哀を感じたものでした。それが今、秋田で自分がタコ社長を演じているとは、不思議な思いです。



私は地方銀行で定年を迎え、ホテル業に何年か、かわつた後、今の印刷会社に入社し十年になります。当時から印刷業界は一般的不況と構造的な問題から厳しい状況にありました。全国でピーク八兆円と言われた出荷額も、今では六兆円を大きく割り込んでい



秋田の

中小企業の 生き残り作戦

渡辺 芳勝 (昭和35年卒)
(秋田協同印刷(株)代表取締役社長)

キドキの進出でした。東京営業でいろんなことを経験し、それが今では当社の大切なノウハウとして蓄積されています。その一つは「秋田県人は信頼される県民性をもっている」ということです。都内で飛び込み営業をしても、汗をかきかき一生懸命話している朴訥とした姿に好感を持たれ、その場で発注していただけの場合もありました。標準的な秋田弁しか話せない営業マンが、お客様に半分も理解できないと言われながらも次々と新規を獲得し、しかもお客様とは良好で長い付き合いを続けています。

地域格差も当社には有利に作用しています。東京では「タコ社長」のような町工場は地価の高騰、人件費の上昇、後継者難等でどんどん閉鎖に追い込まれています。工場が残っても分業化が進み、お客様にとっては不便な状況にな

るような会社が少なくありません。社長が地主で社員が小作人という雰囲気があります。これでは社員はヤル気が起こらないのは当然です。本来、社長も社員も対等です。たまた私が「社長」という役を与えられ演じているに過ぎません。会社は働く社員の物と思えます。金融資本主義から社員資本主義へ移行しなければいけないと考えます。社長は社員の生活を命がけで守り、働き甲斐のある職場作りをするのが努めです。「出る釘は伸ばす」「儲けは全員で分ける」と社員に明言しています。毎年利益が一定水準に達すると、ボーナス以外に期末手当を出しています。しかも、社員の希望によりこれだけは現金支給しています。その時が社長の至福の時です。最近お客様から「工場の社員は仕事を楽しんでいるようだ」と言われます。本当にうれしい事です。おかげ様でこの十年、売上を落とすことなく、黒字計上を続けています。

尊敬する経営者稲盛和夫氏は、京セラの社是を西郷隆盛の遺訓「敬天愛人」としているとのこと。母校の校歌にもあるこの一節に少しでも近づきたいと願っております。

天上天下

今年、「種の起源」で進化論を提唱した英国のチャールズ・ダーウィン(一八〇九〜一八八二)の生誕二百年にあたって。進化論が、人類の歴史や生命観に大転換をもたらしたことは周知の事実である。▼ダーウィンが、測量船ビーグル号に乗って、南米エクアドルの西約千キロに浮かぶガラパゴス諸島を初めて訪れたのは彼が二十六歳の時である。二十ほどの主な島と多数の岩礁から成るその地で彼は、島ごとに異なる生物が生きている現象を目の当たりにし、その衝撃から、「神の摂理」に挑戦する壮大な進化論が展開されていくことになる。▼ガラパゴス諸島は最初の世界自然遺産に登録されているが、世界中から観光客が訪れて生態系は大きく乱れ始めているという。▼ガラパゴスフィンチという小鳥は、人間が近づかない地域では、気候によって変化する餌の量に連動してクチバシの形が変わるそうだが、最近、人間が棄てたゴミを食べるため、それに合ったクチバシをもったものが急速に増加していると報告されている。そうした「負の進化」は御免被りたい。